

令和4年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立相生小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・拍やリズムを感じながらのびのびと歌うことができおり、低学年においてはおよそ8割以上が、高学年においても半数以上の児童が抵抗感なく歌うことができている。
- ・授業中の発問への答えやワークシートの記述などから、各学級の約8割近くの児童は楽器の音を聞き取ったり、曲の様子を感じ取ったりしながら音楽を聴くことができている。

(2) 課題

- ・基礎的な演奏技術が身に付いている児童も多い一方で、特に器楽演奏に苦手意識をもっている児童が各学級2割程度はいる。
- ・楽しんで歌うことができているが、表現の意図や思いを問う発問に答えられる児童は高学年でも全体の約1割程度しかいない。
- ・一人や少人数で積極的に歌ったり演奏したりすることはできているが、学級やグループ全体で音を合わせるよさを味わっている様子が発問への答えなどを通しても見られない。また、授業中に題材全体や一時間の見通しをもって学習に取り組んでいる様子が見られるような発言がない。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・身体表現を使って音程やリズム、拍の感覚を身に付けられるようにする。また、反復練習や階名唱などの基礎的な学習にも身体表現を使い、児童が楽しみながら基礎的な演奏技能を身に付けていけるよう支援する。	・児童が感じ取った曲想などをもとに、いろいろな表現を試してみたり、体験したりする場面を設定する。そして児童の表現の変容を具体的な言葉で伝えながら、学級全体で様々な表現の価値を共有できるように授業を展開する。	・児童が見通しをもって授業に取り組めるよう、題材のめあてや一時間の見通しを毎時間児童と一緒に確認しながら学習を進めていく。 ・演奏する時間、聴く時間をはっきりさせ、音のない時間の大切さや必要性についても指導する。その上で音を合わせることの楽しさやよさを味わえるようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 範唱や範奏を聴いて真似する活動や、反復練習などを取り入れることを通して、児童が自分の思いや意図に合った表現を実現するための技能を身に付けられるようにする。 ・ 授業中に個別で指導する時間を設定し、技能的に苦手意識をもつ児童が達成感を味わえるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 曲の特徴についての気づきを児童同士で意見交換をするなどして深め、それを生かすためのスタッカートやレガート、強弱や速度などの違いによる表現方法を実際に試し、表現を工夫する楽しさを味わえるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が見通しをもって授業に取り組めるよう、題材のめあてや一時間の見通しを毎時間児童と一緒に確認しながら学習を進めていく。 ・ リズムや旋律が重なるよさや面白さを表現及び鑑賞の授業を通して体験的に学べるようにし、それにより児童が学級やグループで音を重ねたり合わせたりして合奏を作っていくよさや楽しさを味わえるような学習を展開する。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 階名唱、運指の確認などの基礎的な学習を継続的に行い、技能の定着を図る。 ・ 授業中に個別で指導する時間を設定し、技能的に苦手意識をもつ児童が達成感を味わえるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童同士での意見交換などにより曲の特徴についての理解を深め、それらを生かすための様々な表現方法を試すなどして表現を工夫する楽しさを味わいながら、思いや意図を膨らませるようにする。また、様々な表現方法を互いに聴き合ったりしながらそれぞれのよさを認め合う体験ができる場面を授業の中で設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が見通しをもって授業に取り組めるよう、題材のめあてや一時間の見通しを毎時間児童と一緒に確認しながら学習を進めていく。 ・ 一斉での学習だけでなく、グループで話し合いながら自分たちで工夫して合奏などを作っていくような学習を展開する。また、お互いの演奏を聴き合うことで、それぞれの演奏のよさや面白さを共有し、次の活動の意欲へとつなげていく。